

中齋塾 東京フォーラム
平成 25 年度 第 10 回講話

平成 25 年 11 月 9 日
於 湯島聖堂

おはようございます。急に寒くなりました。人生も急に寒さが訪れることがあるし、暑さも訪れることがあると思います。今、代表幹事が言われた食品業界は、デパートも高級レストランも急に冬が来ました。嘘をついていると突如として来るのでしょうかね。そんな感じがしました。

この間、出雲大社に行きましたら、赤福が売られていました。街中や駅で売っていらしたので、賞味期間を聞きました。けっこう長持ちするのかなと思って赤福専門店で聞くと「すぐ食べてください。今日明日で食べて頂きたい」というような返事が返ってきて、少し離れた土産物店または駅で聞くと「大丈夫です。けっこう長持ちします」と言われました。何なのかと聞くと、長持ちするための薬を入れているところは長持ちをするということです。美味しく食べるには、早目に食べてくださいということなのでしょうけれど、どうも味覚が鈍くなっているらしくて、作ってすぐ食べさせてくれるところで食べても、土産物店で買って食べてもどう違うのかあまり分からない。だからステーキも色々な肉を混ぜ合わせて捏ねて、ステーキのような形にしても私は分からないなと思いました。

たぶん、最初は些細な嘘だったのでしょね。「申し訳ありません」と頭を下げる人達の弁を聞いていると、皆いい訳ばかり。誤表示など色々と余計な言い方をして、悪いのはお店側で我々は関係ないが、でも監督責任があるから、ちょっとは頭を下げましょう。…この人達は何を言っているのかなと思います。今の時代は、責任逃れが多すぎるなと感じます。責任逃れをする出だしは、些細な嘘、ちょっとした嘘から始まって、それを少しずつ隠している内に、取り返しがつかなくなる。そうすると、取り返しがつかなくなるまで嘘をつくと最後は開き直ってしまう人がいる。開き直ったら、どうにもならないし、手がつけられない。敬して遠ざけるといふ事態も起きてくる。

今日の論語の中にもありましたが、可愛さ余って憎さ百倍。二股三股かけて愛欲の情というのが見えてきましたが、愛欲の情が出てくるのは、「隠し続けて欲しかった〜」という島倉千代子が歌っている、歌の中にそういうのがありますね。それと、官僚・政治家の世界にはあります。この話は墓場まで持って行きます。一切言いません。でも亡くなってから色々資料が出てきます。資料が出てくるから死んだ後にはチラチラ少し見えてくる。

ごめんなさいと謝ると、開き直ると、墓場までもって行くのと、それぞれ違いますね。

出雲大社に参りました時に、奥出雲町の教育委員会の方と会いました。そこで大阪にある論語普及委員会の会長がタタラ一族だと聞きました。タタラ一族は砂鉄を採ってかなり大掛かりなビジネスを展開していた一族。その会長が村下さんというのですが、昔は「むらげ」一族と言っていたようですが、「むらした」一族ということ世の中にあまり出さないでいたら、「むらげ」から「むらした」へ広がっていったと奥出雲町の方にお聞きしまして、論語普及会の会長さんに会えたら会おうと思っていたのですが、是非会いたいと変わりました。その理由は、山田方谷が漢詩の中で、凄まじい借金を踏み倒して悪かったごめんと詠んでいるのです。山田方谷が頭を下げて申し訳なかったと言い残すのは、大阪商人の借金をかなり踏み倒したからと世に伝わっていますが、どう考えても、それだけではないはずだと思っています。地元で踏み倒した人達また泣かされた人達も、いるはずです。

民間で鋤・鍬という鉄製品を作る製鉄所を大掛かりにやっていた所を強制的に没収して、官有に変えたのです。例えば、順調にやっている私鉄を全部強制的に収容して官制・JRに切り替えた。山田方谷がやった大きな事業のひとつです。

私は強制的に没収されたのはタタラ一族ではないのではないかという考えが頭の中にあっただけで、ぜひ会って話を聞きたいと思いました。そうしたら、私の狙ったものの返事は返ってこないで、何も伝わっていませんでした。ただ、山田方谷と接点はあったように思うということでしたから、ものの見事に山田方谷という人は、自分にとって又は世間に公表したくない話は見事に隠しおおせていると感じました。とにかく資料は全部焼き捨てている、残していない。残っているのは漢詩と手紙だけ。色々ときな臭い資料は全部処分しています。

私は秋の便りで出しましたが、昔の資料はドンドン処分中と書きました。新しいものはその日の内に処分をすると書きましたが、なかなか処理をしようと思ってもその日の内に処理というのは難しいものですね。墓場までこれは持っていくものもあるかなと思います。これは1年ぐらいみて処分しようかなと工夫するのは、よいことです。

恒例の質問

嘘についてお聞きします。これは後々手痛いしっぺ返しがくると思うような嘘を現在進行形、またはひきずっている人はいますか？手は挙げなくてよいですよ、大変ですから。思っている方がいたら心の中で手を挙げてください。そんなことは全然ないという方も心の中で手を挙げてください。どうぞ墓場まで。

- ・昨日一日嘘をつかなかった方
- ・昨日一日良い日だったと思う方

何度も申しますが、天秤にかけないで何か一つでも良いことがあったら、良い日だったなと思えば良いわけです。悪いことがたくさんあってもそれは忘れて、良いのだけ残す。

この間、同友会の集まりで京都に誘われました。たまたま空いている日でしたので、京都日帰りをして来ました。良いことが一つありました。「阿頼耶識」という本を書いた横山紘一先生がおられましたので、その先生とお喋りをしました。阿頼耶識について少々意見を聞いて参りました。「良い日」か「良い日ではない」という私の考え方は基本的なところは、だいたい合っていました。ただ専門家だなと思いました。「阿頼耶識」という言葉は、ご存知の方も多いので、横山先生とお喋りをした時、五感の話、阿頼耶識の話をしていてもごく普通の対応だったのですが、向こうの態度がちょっと変わる瞬間がありました。話が弾んだきっかけは種子という言葉でした。これを「種子（しゅうじ）」と呼んだのです。「しゅし」ですものね。阿頼耶識を説明する時には、このような言葉を使います。「種子（しゅうじ）に関して」と言ったら、目がパカッと輝きまして、あ、こいつも専門バカだと思っただけでお仲間のお喋りと切り替わりました。素人にいちいち説明するのは面倒だというのが態度にあったのですが、向こうでゆっくり話しましょうと変わりました。名誉教授で仏教大学の副学長という名刺を頂きました。瞬間的に思ったのは、相手に分かる言葉で話した方が良いですね。

その先生の知識と私の知識を比べれば雲泥の差のはずです。その方は、仏教とは宗教ではありません。仏教とは哲学です。そのような話をポンポンと出してくる。あなたのお考えになっている仏教は、いつの時代のものですかと聞いてくる。私はサンスクリット語から入りましてチベット語で解釈をすところなりまして、いつの時代の仏教をお考えでしょうかとポンポンとくる。私はサンスクリット語やチベット語も知らないですし、それに関する専門家としての答え、会話は出来ないから、自分の持っている知識で普通に対応しました。普通の言葉で話が出来るのは良いなと思いました。

その方は、自分の言葉で語れる仲間に飢えているから、自分の言葉で語れる人がいるととんでもなく話をしたい。意に沿わぬ会話をしていると段々ストレスがたまってくる。自分の話が通じる相手を少しずつ作って置いた方が良いなという気がしました。これはどういう付き合いでも良いのです。それぞれの仲間が必要だと思います。

色々こんな話をしたのは、どこかで良い日だったなというのが引っかかりませんか。誰かに会ったとか、美味しいものを食べたとか、自分の仲間がいたとか。それでも、ちょっと今日は気分がよくないと思ったら、相手は迷惑でしょうけれど、自分の話が通じる相手を叩き起こして電話して今日も良い日だったなと思って寝ればよい。そういうことで文句を言わない人もいるはずですから、私は真夜中に電話をかけても問題ない人がいるの。そういう人はいますか。

出雲大社と伊勢神宮で…

5月に、西行法師の「何事のおわしますかはしらねども かたじけなさに涙こぼる」と

いう句を書きました。こういう感覚を出雲大社と伊勢神宮で味わって参りました。

出雲大社は二礼四拍一礼。伊勢神宮は二礼八拍一礼。実際に伊勢神宮で八拍するのか、確認してきましたら、きちんと八拍していました。

伊勢神宮も出雲大社もお賽銭を受け取る場所がありません。作り方をみていると、最初はお賽銭を頂きましょうという発想がなかったのだなと思いました。面白いことに大黒柱を中心に建物が建てられるのだが、伊勢神宮も出雲大社も心御柱（しんのみはしら）という柱があったのですが、現実には建物を支えておりませんでした。建物を支える柱は別にありました。出雲大社に行きますと大きい柱があり、その上の方は雲に隠れて見えないという記述が残っています。現実にはこのような高層建築ができたかどうか色々調べて見ると、たぶんあったのだろう、出来たのだろうと証明がされてきています。1本の柱ではなく巨大な柱を集めて高層建築を造っていました。絵で残るのはこのようなものですが、現実に行ってみると心御柱といわれているものが建物を支えるのではなくて、見た感じの大黒柱でして、支える柱は違うところにありました。

一般の家庭の中では、どうでしょうか。大黒柱は外から見てもがっちりした家の長と見えますが、実際の中はどうですかね。奥様の力は強いのではないですか。ということで外面は旦那の方が強そうに見えるけれど、中に入ってみると、違うものに支えられているのではないのでしょうか。

そういう点では、出雲大社と伊勢神宮は同じつくりでした。伊勢神宮も出雲大社も中に入りましたが、外側は荒垣という垣根があり、その中に本殿があります。その本殿の周りに、こういう言い方はどうか…。私の実感でいきますと、大国主の本殿があり、祭られているのですが、大国主は恐妻家で、奥さんが焼きもち焼き。かなわないだろうなと思うのですが、後ろに父親または6代前の先祖という言い方もありますが、素戔嗚尊が控えておりバックアップしているけれど、周りは正妻がいて看護婦さん二号さん、三号さんがいて…6人。本殿の周りに御社があつて皆さん拝礼していますけれど、今、正妻に拝礼したな、二号さんに拝礼したなと思って見ていました。大国主は女性陣に囲まれている。奥さんが亡くなって黄泉の国まで追いかけて行ったのですが、奥さんの顔を見て逃げ帰って来るといふ話もあるし、何度も殺されて母親が復活させました。だから女性軍に囲まれて大国主がいるのだな、それで頑張れよと、後ろから父親がエールを送っているそんな感じのつくりでした。

外側は荒垣の垣根で囲まれて本殿があり、玉垣があり、瑞垣があります。三つの垣根があつてどこにもお賽銭を受け取る場所がない。伊勢神宮も垣根で囲まれていて、拝礼する場所は後から便宜上付け加えていったのだなと感じました。そういう風に思うと伊勢神宮も出雲大社も親近感が湧いてきます。

伊勢神宮も出雲大社も、神様のお引越しということだけで疑問に思いまして、地元の人に聞きましたけれど、きちんとした答えがありません。知っている人がいたら教えて貰いたいです。神有り月に出雲大社に神様が集まる。そうするとこの話でいけば、伊勢神宮も

神様がいなくなるわけですね。でも皆さん神様がいるということで伊勢神宮でも参拝されるわけですね。伊勢神宮の神様は神無月の時には行かないのと聞いたら「いや、いるみたいよ」出雲大社で聞けば「いや、当然きているんじゃないの」と、分からない。本当はどっちにいるのと聞いても誰も答えられない。「神様だから、ここにもいれば、あちらにもいるんじゃないの」と言う答えでした。かなり良い加減の話だなという気がしました。でも、どこにでもおられるのでしょうか。そういう実感はありました。ただ、どちらも共通しているのは、「何事のおわしますかは しらねども」という感覚はピリピリ来ました。日本人は背筋をピッと伸ばすそういう場所に、時々行くことは必要だなと思いました。60年20年毎の神様の引越しは非常に結構なことだと思います。

出雲大社に行って思ったのは、19社と書いてある神様のお宿だけれども、何のことはない、今風にいけばビジネスホテル。ビジネスホテルが長屋方式であって、そこに八百万の神様が入る。

出雲大社に神様が集まるのは、縁結びということですが、行って見て色々と確認しますと、何のことはない法事で集まるのだそうです。天照大神が御隠れになって法事で集まる。ただ法事だけでは何となく時間ももたないから、北海道の嫁さんと九州の婿さんとを結び付けようではないの、全然違うところ同志を結びつけば、良い国民が出来るんじゃないの、良い赤ちゃんが生まれるのではないのと。私は何となく、同じ神様の中でお願い事がきていると、こっちの女性とあっちの男性を結びつけると思っていたのですが、そうではなくて全く違う神様とで話し合っ、縁を結ぶのが多かった。そんな感じがしました。

やはり現地に行って見て、ガイドさんや神官とか人様の話をふーんと思うだけではなくて、そこにプラスアルファで自分の意思を持って見ると少し見方が変わってくる。できるならば、親近感を持って感じられるような見方が良いかと、伊勢神宮と出雲大社で感じました。この二つがあって良かったなとそう思いました。

素読論語解説

【十】子張 徳を崇くし惑いを辨えんことを問う。子曰く、忠信を主とし、義に従るは、徳を崇くするなり。之を愛しては其の生きんことを欲し、之を悪みては其の死なんことを欲す。既に其の生きんことを欲し、又其の死なんことを欲するは、是れ惑なりと。

何度も申し上げていますがけれども、その時の状況をイメージする。この時、孔子は60代に入っています。

先日、一泊旅行で青森に行きました。その中のお喋りで思ったのは、若い頃はつっぱっていて相手に強いことを言っていたのが、最近はまるくなって相手のことを頷いて聞く。自分でも人生が変わった、人間が変わったという話を聞きましたが、孔子も60にして耳従

うということですから、相手のことを聞く。渋澤栄一さん、この人は耳従わなかった。84歳で残したものに、最近になってようやく40にして惑わずの境地に至ったとありました。やはり人様にビシビシと手厳しく批判しないで、そうかそうかと聞く心境になる。私は、本音ばかりでしたけれどね。でも、本音も時と場所によると言われたことがあります。レストランに入って美味しかったら美味しいと言う。不味ければ、不味いと言う。そうすると一緒に行く人は、不味いと言うなど。レストランでも不味い時は不味いと言え、偽装にまでいかないと思う。

ここは孔子が耳順の時代に入り、子張は二十歳の若い人。その若きお弟子さんが孔子に徳を高くして、どうすれば迷わなくなるかという諺について、良く分からないので教えて頂きたいと言った。弟子は若いから、あまり理想的なことを言って理想に走ったのでは困るから、自分の身に近いことで説明しました。

孔子は、誠実で約束を守る人達と交わることが、自分自身の徳を高くすることである。愛する時は、ここは仁の愛ではなく、個人を愛する場合の愛だから I LOVE YOU です。その人のことを愛している時には長生きして欲しいと思うが、憎むとその人の死を望む。これは愛欲の情である。男女間での愛憎の念というのかな、ここはそういう風に話しています。愛欲の情があるのは迷いだよとお考えください。

理想通りには、なかなか行かないと、孔子が若いお弟子さんに教えているというイメージです。

【一一】齊の景公 政 を孔子に問う。孔子対えて曰く、君 君たり。臣 臣たり。父 父たり。子 子たりと。公曰く、善いかな。信に如し君 君たらず、臣 臣たらず、父 父たらずんば、粟有りと雖も、吾 得て諸を食わんやと。

景公には後継者がなく実権がない。実権がなく、やることがないから、女の子に手を出している。「政治の要諦は」と孔子に聞いても、孔子は自分で自分の始末も出来ないのに、何を言っているのか。祭り上げられているだけという感覚が頭にあるから、批判的な言葉で言っているのではないかなという感じがします。

「君 君たり。臣 臣たり。」これは徳川家康が喜んだ。ダメ君主でも、君主は君主らしく、家臣は家臣らしくと。ダメお殿様でも大事に守って、支えていこうではないか。徳川政権は、この考え方で代々守って貰いたいものだというのが透けて見える話です。ところが今の時代、社長は社長らしく、社員は社員なんてやっていたらすぐ放り出される時代だと思います。見てくれではいけないと感じます。

「父 父たり。子 子たりと。」父親は父親らしく、子供は子供らしくとありますが、今は父親の義務を果たさない。子供の義務を果たさない。何だか、今はこちら辺はおかしいで

すね。

景公は、「もし、君主は君主らしくなく、家臣が家臣らしくなく、父親が父親らしくなく、子供が子供らしくなければ、食べ物があっても私は食べる事が出来るであろうか。食べられっこない」ということを言っています。

女性のための論語ということを言われ、意識してみると言葉として婦人のことは書いていなくても、論語の中にはいっぱい女性のことは出ています。隠された女性感とか、隠された女性の話だとか、今どんどん出てきていますから、そういう視点で書く糸口が見えてきました。女性の話が論語の中にも出てきたので、論語も身近なものとして読みこなすことによって、論語の科白の根っここの部分が見えてくる。見えてきて自分なりのものに血肉にできれば、現代の人生、周りの方の人生に役立つものが、腑に落ちてくるという感じがしてきます。

紹介書籍

『もったいない』完全保存版　プラネットリンク編　マガジンハウス文庫

文庫で読みやすい。ご一緒にまわしておかないといけないものに、「論語普及の会」という集まりがあります。

次号季刊誌『知足』の触り

来年の干支は、甲午（こうご きのえうま）。「甲」は鎧。殻を破って新しい芽が出てくる、しかし「午」は反対勢力があって、なかなか進まない。伸び悩む年。だからアベノミクスが順調にいったって、やれ成功したとはならない。曲がりくねって困る。だいいち消費税を8%に上げて景気がよくなるわけがない。

ものの考え方として、世界の国々で順調に政治勢力が安定して、その国が発展している国があるのかという類のことを考えると、世界全体は伸び悩み、日本はさらに屈曲をする。来年は伸び悩む年。

新年号でインタビューをしました顧問に関してのことで申しますと、触りを「独り言」に書いておきました。

開口一番、「五感」。見る・聞く・味わう・嗅ぐ・触れる。この五つによって、何を感じるか。自分の五感を大事にするような年にしたいとのことでした。

顧問流の科白ですが、アインシュタインは死ぬ前にこれからの世界はキチガイだらけになるという言い方をしたそうです。あの人の思考はポンポンと飛ぶのですが、「何ですか」と聞いたら、そしたら「だって電車に乗って御覧なさい。スマホだか携帯だか分かりませ

んが、ずっとそんなものを見て情報ばかり取っている。自分の頭で考えることをちっともしていない。あれは一体何だろう」と。ご自分もパソコンはするのですけれどね。

その時に言っていたことは五感を大事にする。その中の「見る」について、素晴らしい景色を見た人でなければ、素晴らしい景色について語り合える時間は持てません。素晴らしい景色を見たという体験、経験、共通認識がないと話なんか出来っこないと同様に、素晴らしいものを見たり、聞いたり、味わったりしなければ、同じ話は出来ないということに共感しました。ご本人は感じるという言い方をしていました。

<時事評論>

このところ体験が増えまして、出雲大社と伊勢神宮に行きましたけれど、その時には気が向いて大阪や神戸にも寄ったし、帰ってすぐ京都に出かけて戻ったら青森に誘われて行きました。紅葉が非常に良かったです。やはり一緒に行ってその景観を味わってこないと、あの紅葉が良かったという話にはならない。やはり同じ体験をするのは必要だなと思います。

同じ時代認識を持っている人、同じ時代に生きた人と話が出来る。出来るだけその時間を取った方がよいなと感じます。

百を過ぎたおじいさんにインタビューをする人が「良い人生ですね、長生きをしてよろしいですね」とマイクを向けたら「今は早く死にたい。何故ならば、同じことを話できる、同世代がみんないなくなってしまった。早くあの世でそういうお喋りをしたいものだと思う」できる限り同世代の人は生きていて貰いたいものだなと思いました。

我々は同じ時代の同じ共通認識を持っているのだから、できるだけ健康法をやって頂いて尚且つ認知症にならないように頑張って頂きたい。でも認知症も悪くはないみたいです。段々死が怖くなくなってくるからという感じがします。

五感をよりよく味わうためには、自分自身の手入れをしなければいけないと思います。手入れをするのに、日常の場合の手入れと、非日常の手入れがあるけれど、肝心なことは出すことだなという気がしました。

出すというのは、息を吐くこと。呼吸については吐くことを意識する。出すべきものをちゃんと出す。トイレに行ききちんと出すものを出さないと病気になる。それから、食事に行ってお金を出す場合になった時には、出せるときには出しましょう。お金を出し惜しみしない。意見を求められたら智恵も出し惜しみしないで、知識も出すし、智恵も出す。そういう生き方がよいなと思います。怒りも感情が高ぶったら、やはり出すべき時には出しておいた方がよいなと思います。最近、出すことが肝心だなと思いました。

あと最近、土に触れるのも必要だなと思います。家庭菜園をする方は、野菜をいじる

時には土に触れますね。

人間にとって、土は生きる上で大変重要な役目を果たしていますので、土の感触は忘れてはいけないものだと感じています。

先ほどの京都フォーラムは、色々な大学の先生や世間的に有名な先生も15分のご挨拶でした。三つほど感じました。世間的に名前の通った先生が出てきて15分あれば十分言いたいことは申し上げられると、だいたい皆さんそういう言い方をしています。最後になると時間が足りない。どうしても皆さんに言いたいことがあるという「最後の一言」が長い。紙に5分前、3分前、タイムオーバーと話している人の前で出すのですが、全然気にしないで話す人は話します。「最後に一言」を3回ぐらい聞きました。30分位は全体的に遅れていました。やはり世間的なルールは守らなければいけないだろうと感じます。話ができる人は内容の濃い良いことを15分で言いますが、出来ていない人は15分でも20分でも使います。「最後に一言」は、言わない方がよいですね。どうしても皆さんにお伝えしたいという話を何人も聞いていたのですが、これだと思うのは、さりげなく話している中にフッと入っています。強調した科白は、陳腐なものが多いと感じます。

その中で、壇上に講師陣や塾生も出てくる時に、ほとんどの人が胸を張り前を見て出てくるのですが、終わって帰る時には背中が丸まる。終わったと思うと背中が丸まる。終わった時の方が肝心なのではと思いました。

あと、「仁」の新しい解釈が面白かった大学の先生がいました。

「これが私の仁の新解釈でございます。君主とは、人との間に立ち上るものを体現した人を君主といいます。小人とは、村落共同体の組織を破壊するグローバルリズム的考え方をもった人間を小人といいます。仁とは、人との間（あわい）に立ち上るものです」チンプンカンプンで何を言っているのか分からなかった。学者というのは変なことを言うものだと感じました。でも、よく考えると分からなくない部分がありました。人と人との間、接点というのかな、人と人を結ぶものが目に見えない何かがあります、それを上手に活用する人が君主であって、一つに活用できない違った考え方で、人と人の環境を破壊するのが小人ですよという類の科白だなと思ったのですが、どうでしょうか。曲がりなりにも名前の通った先生が新しい解釈を言うと、評価をしたり分析をしたりしないといけないんだと感じました。訳の分からないことを言っても、みんな批判はしないおかしな世界だなと感じました。

見た時に感じたものをエクスとして取ると良いでしょう。

先ほど、来年は「出す」のが大事だと申しましたけれど、息を吐く時、吸う時に意識して、息を吐く人はいますか。

結構おられますね。ありがとうございます。

息を吐くことを意識した方が良いです。私が時々するのは、まず呼吸をする時には一回

出しておいて、吸って、ゆっくり吐く、ゆっくり吸う。ゆっくりというのを言い聞かせています。イメージとしてはずっと遠くまで広がって行って、吸う時には自然の景観で良いなというものを、たくさん身体に取り込むような感じです。出雲大社で感じました。出雲大社の神殿では感じないけれど、後ろに小高い山があり、そちらの方に向かって立って見たら、何となく良い気持ちだなと思い両手を広げ立ってみました。手を挙げてみると、良い気持ちだよというのが入ってきた感じがしました。これは感覚で、イメージですから、なかなか言葉では説明できません。良い気分だなと思っていたのですが、このポーズは何かなと思ったら、出雲大社の像を思い出しました。それは大国主が海の彼方から、和魂（にぎみたま）を迎えて国司になった像です。それは向こうから和魂がきたから…魂は荒魂（あらみたま）と和魂の二つがあるのだそうです。和魂の中に幸魂（さきみたま）と奇魂（くしみたま）があるのですが、話が長くなるので興味のある方はどうぞ魂についてお調べください。

大自然の中で感じが良いなと思って、そのエキスをキャッチしようと思ったら、手をこちらに向けると良いみたいです。興味のある方はやってみてください。

「出す」ものとして、トイレで出すものを出せるというのは、すごく幸せだと最近思います。出ないと困りますもの。これは五体満足で自分の足で自分の力で、出すべきものを出せるのは大変幸せなことだと思つづく思います。健康であればこそできる。健康でないと、人様の手を借りなければトイレにも行かれない方は、世の中にたくさんいる。それをちょっとと思うと、出すべきものは出せるほうが良いと感じます。

お金も出し惜しみをしない。出すべき時がきたら出す。出そうと思っても財布がカラカラだったら出せないですものね。出す場面になって出せるのだったら、出したほうが良い。ただ全部出して電車賃がないというのは困りますから、電車賃ぐらいは残した方がよいなと思います。出すべき時に出し惜しみをする方が多すぎる。3・11の時も出し惜しみの方が多かった。出したけれど後を考えないで出している人も多い。どう使われているかを気にしないで出す人が多い。出したということで自己満足してしまうから、出した後はどうなっていくのかというのを見届ける必要がある。こう考えるのは、現地に行って現地を見て話を聞いて、五感で訴えるものを感じたから、出し惜しみをしないで出すほうが良いなと思います。

今、世の中を見るとアベノミクスに世の中が動かされていますけれど、アベノミクスは失敗する役回りでもまれてきているものだとは私は思っていますので、今のところは良さそうに見えます。来年になると伸び悩むアベノミクス失敗という話がどんどん増えてくると思う。ですから自衛をもっとしなければならぬと思います。

新聞に関していけば、今日の新聞を見ましても税金を上げるものばかり。よく氷山の一角と言いますが、世間に出てくるものは海面に出たものが若干。その後、もっと凄まじいものが出現します。税金のアップもあるけれど、家計を苦しめるようなもの、個人の生活

を苦しめるようなものが、どんどん増えます。自衛努力はやってもやっても追いつかないぐらいだと思います。そこに持ってきて食品偽装というのが出ています。何のことはない、利益を上げようと思ったから、出し惜しみをしているから、儲けようと思っているからです。

やはり「利によりて行えば怨み多し」という論語の科白を、もう一回見直しをする良い時機だと思います。

相手のことばかり考えていると、自分の方が沈むということもありますけれど、自分だけ貪ろうとしてはいないかどうか。自分自身の利益よりも他人の利益、他人によって良かれと思ってやるほうが、来年は良かったねという一年になると思っています。決して自利ばかりやるべきではない。世の中は、マスコミは、自利ばかりですから、貪るものばかりです。

前に、高額所得者と中間所得者と低所得者というのは、どこで区別をするのかというのが気になるので申し上げました。

昨日の朝日新聞で、厚生労働省が1千万円以上の高額所得者と発言していますが、国民健康保険は、今は税とついていますよね。実際に国民健康保険に加盟している人のところに送られてくる資料は、国民健康保険税と書いてあります。新聞に書いてある部分は、意識的にカットされています。情報操作をこういうところでしています。国民健康保険の料金が2万円増えて、それは高額所得者が対象ですと書いてあります。気になるのは高額所得者というのは、一体どこからなのか。

別の記事を見ると、NHKの会長の人事案、安倍総理の親しい人を入れようとしているけれど、大企業の会長社長を入れると給料が落ちるから、NHKは年収3000万円しか貰えないから、やり手はいないだろうという記事があります。

自分自身の所得は一体どこら辺なのか。政府が発表するものはどういう風に見ればいいのか。自分なりのキーポイントをつかまえて新聞を見ていく必要があると思います。

私はその所得というのが見たいと思っているし、同時に政府が気にしていて、表面に出さないものは何なのかということ来年はあぶり出しをしたいと感じています。

時間が参りました。そろそろ終了とさせて戴きます。有難うございました。